

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173100314		
法人名	社会福祉法人じねん		
事業所名	グループホーム寿楽(楽ホーム)		
所在地	上川郡当麻町4条西2丁目1-10		
自己評価作成日	平成26年8月20日	評価結果市町村受理日	平成26年10月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=
-------------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田や畑に囲まれ、四季の移り変わりを楽しみ、地域の方々との交流の中で、笑いのある生活を送る事が出来、理念でもある「のびのび、にこにこ、暖かく、ゆったり、いっしょに、楽しく、長寿喜楽、敬老奉仕」にもある様に、自分らしく生活できる様努めています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成26年9月17日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、周りは田園地帯で幹線道路に面しており、町役場や消防署、体育館などの公共施設が徒歩圏内にあり利便性に恵まれている。向いにはコンビニエンスストアがあり、火事などの災害時には一時避難所として協定がかわされている。管理者は、利用者が笑顔でゆったりと暮らせるようにしたいという思いでこの事業所を開設し、理念にもそのことが明記されている。施設長をはじめ職員は、利用者の笑顔が見えるよう言葉遣いや態度に気をつけ、利用者に寄り添うケアに努めている。職員自身も笑顔で接し、そのことが利用者に着き与えている。地域交流も盛んで、近隣の住民が夏場はたくさんの野菜を持ってきて、お礼にその方達を納涼祭やクリスマス会に招待している。また、園児が定期的に来訪し、遊戯を披露し一緒に遊んだり、クリスマスには利用者が園を訪れプレゼントをしたりするなどほほえましい交流の場を定期的に設けている。園児の絵は廊下に飾られ利用者を和ませている。終の棲みかになるようにターミナルケアのマニュアルを作成し、家族・医療機関と職員が連携を取りながら前向きに取り組んでいる。利用者は地域の方が多く、地域に支えられ地域の方を支える事業所として、これからも期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をミーティング時に唱和し、それに基づき実践している。	職員は理念である「のびのび、にこにこ、暖かく。」 「ゆっくり、いっしょに、楽しく。」をよく理解し、利用者の笑顔が見えるよう、利用者笑顔で接し、ゆっくりとしたペースで寄り添うケアを実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の幼稚園児が定期的に来所して下さる。又、運動会など招待されている。	近隣住民との交流は良好で花や野菜などをもらったり、お礼にクリスマス会や納涼祭に招待したりしている。幼稚園児が定期的に来訪し交流している。ボランティアの方が事業所に来て芸を披露したり、そば打ちなどもしている。災害時の地域協力関係も構築されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏は納涼祭、冬はクリスマス会等、地域の方々に参加して頂き、貢献出来るよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政・民生委員・家族の方々からの声を聞き、サービス向上に活かしている。	運営推進会議には地域包括支援センターの職員、町職員、民生委員、家族、職員が参加し、定期的開催されている。事業所の現状報告のほか、災害時の地域協力体制の具体的な内容を話し合うなど、具体的な成果をあげている。出席できない家族にも議事録を知らせる方法を検討する予定である。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ケア会議に参加し、サービスの質の向上に積極的に取り組んでいる。	運営推進会議に町の職員が参加しており事業所の現状報告を行っている。また、地域ケア会議に出席し徘徊時の搜索態勢を作らざることを要請する等、積極的に町に働きかけ、行政と連携し、ケアサービスの質の向上に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はあってはならない事と理解しており、実践している。心のケアにも努めている。	身体拘束は一切行わない方針で、家族から安全上要請があっても説明し、工夫して身体拘束は行っていない。言葉遣いは特に気をつけており、職員同士気がつけば注意しあっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	毎日のミーティング、日常生活を観察し利用者の状況に応じ、話し合いを行い防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を活用されている利用者の方もいるので行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時に契約書類等の読み合わせを行い、不安や疑問点を率直にお話して頂けるよう、関係作りに努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族からお話を聞いて、意見や要望などがあれば反映させている。	管理者は普段から意見、要望を言いやすい雰囲気を作っていて、利用者が、職員に気楽に要望を伝えられるよう努めている。意見・要望は可能な限り取り入れ運営に反映している。家族からは来訪時や全員参加の家族会総会、運営推進会議などで意見・要望を聞いて運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談や相談など職員との話し合いの場を設けている。	毎月の定例会議や日々のミーティング、職員面談で、職員の意見や提案が積極的に出され、利用者のケアや運営に反映されている。職員の気づきは、付箋に書かれたメモを日誌に貼り付けられ、ケアに活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談などで職員の勤務の状態等を聞いて、職場の環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修会などに参加したり、ミーティング時、内部研修会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会等に参加し、交流を深めサービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に、ご本人、ご家族と面談し、お話を聞かせて頂き、情報共有し、ご本人が安心して生活できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所してからも、ご家族とこまめに連携し、ご家族、ご本人とも不安、心配があればお話をその都度聞き、安心して生活して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	お話を聞いたり生活状況を見させて頂く中で、サービス内容を検討したり、他サービスと連携をして対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活し、支え合うという意識で支援している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との信頼関係を築けるように対応に配慮し、面会に来やすい環境を作るように心掛けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間に制限はなく、外出や友人等の面会ができるよう支援している。	家族や友人、近所の方が気楽に来訪しやすいように、面会時間に制限を設けず、くつろげるスペースも十分に確保している。職員が利用者を自宅に連れて行ったり、町の敬老会に出かけ、知り合いに出会う機会を作るなど、これまでの関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	なるべく皆様で過ごせるよう支援し、一人で孤立しないように対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、これまでの関係を大切に思い継続対応を行っている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の希望、意向を重点的に思い、職員同士日頃から話し合いを行っている。	普段の関わりの中で、利用者の要望や思いの把握に努めている。職員の気づきは、付箋にメモし、日誌などに貼り付け利用者の思いを職員で共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の情報やセンター方式を活用し、把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月1回のアセスメントシートで、全員で現状の把握に努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の言葉や身体状況を記録し話し合い、モニタリング、ケアプランの作成を行っている。	毎月職員3人のチームで3人の利用者を担当している。独自のアセスメントシートに記入し、ミーティングでそれをもとに職員全体で話しあい、モニタリングしている。通常3ヶ月に1度、状態に応じその都度、介護計画を見直している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌や経過報告に情報の記録しプランに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問リハビリ、かかりつけ医、看護師等連携して支援している。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	心身共に健康で暮らせる様、病院受診等、安心して生活できるよう行っている			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の定期受診、利用者の状況の変化等を看護師と日々相談し連携した対応を行っている。	利用者は希望するかかりつけ医を受診しており、協力医の受診時は職員が付き添いを行っている。事業所には看護師が常駐しており、かかりつけ医と連携し、利用者の日々の健康管理を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員に看護師がおり、情報共有しその都度相談しながら、受診等対応できるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時より病院で家族と情報交換を行い、なるべく早く退院できるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	疾病の重度化に伴い、かかりつけ医師、家族と相談しながら行っている。	入所時、家族にターミナルケアの対応を説明し、同意書をかかわしている。事業所としての限界を示しながら、家族、医療機関、職員と話し合い、看取りをする方針である。看取りの実績もあり、今後も勉強会をし、ターミナルケアについて学び、積極的に取り組んでいく予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年2回、救命救急の訓練を行い実践力を身につけるよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協体制度を築いている	毎年2回、消防署職員の指導のもと、避難訓練や避難時の研修を行っている。行政、家族会・地域住民の参加も協力して頂いている。	消防署の協力のもと、夜間想定を含め年2回の避難訓練を実施している。スプリンクラーの設置、消防署への直通電話の設置、災害時の地域協体制度も構築されている。今後、災害時に備え水等の備蓄を検討する予定である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、プライバシーに配慮した思いやりのある声かけを心掛けている。	職員は利用者の尊厳を傷つけないように言葉遣いには特に配慮し、職員同士気がついた時は注意しあっている。介護20箇条を作成し、利用者を敬うケアを実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様の希望・表現などしやすい様、対応を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入所者の皆さんが楽しい毎日が過ごせて頂ける様、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪・服に関して恥じらいのない様、心掛けしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえや、食器洗いなど手伝って頂いている。	近隣の方からいただくたくさんの野菜をメニューに取り入れ、新鮮でおいしい食事を提供している。利用者の希望により出前寿司を月1回取り入れ、誕生会には赤飯、茶碗蒸しなど利用者の好みを考えながら提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事表に記入し、水分等不足している時は、その都度すすめながら対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、必ず口腔ケアをして口腔内の清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、出来るだけトイレで排泄できるよう支援している。	おむつはずしに取り組み、ほとんどの利用者が車椅子を使用しているが、トイレ排泄を基本としている。職員は排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。パットを使用している利用者はいるが、おむつをしている利用者はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、バランスの良い食事を取れるように考えている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者さんの体調に合わせて入浴を楽しんでいただいている。	基本、週2回の入浴で曜日は決まっているが、利用者の状態に応じて別の日にも対応している。夏場はシャワー浴を行ったり、状態にあわせて臨機応変に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して入眠できるように心がけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の成分表を確認し、変更がある場合は様子観察し、症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人一人の得意な事や楽しみ方など、体調見ながら支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出に制限はないので、ご本人の希望やご家族と外出される時など協力体制を整え支援している。	車椅子使用の利用者が多いが、夏場の晴れた日は毎日東屋で体操を行ったり、向いの家の花を見るなど、外に出るようにしている。町の敬老会や花見、芋掘り、冬場のイルミネーション見学等、外出の機会を作っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物、受診時等渡し使用して頂く。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使用され、ご家族とお話をされている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間の空間にも植物や季節の花を飾ったり、居心地よいスペースを作り上げている。	天窓のついた広いリビングには季節を感じさせる飾り物や、利用者と職員と一緒に作ったちぎり絵が飾られている。また、幼稚園児の絵が廊下に飾られ利用者を和ませている。外には東屋があり、晴れた日には体操や食事をする憩いの場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや食卓、あづま屋でみなさんと歌ったり話をしたり思い思いに過ごしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前より使用されたものを持ち込まれている方や、ご家族の写真等を飾り、心なごまれるよう工夫している。	居室には洗面台、ベッド、カーテン、押入、物置台が備えられている。利用者は仏壇、ソファ、椅子、テレビなど思い思いの物を持ち込み、居心地の良い空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり等や自室内もご本人が生活しやすいよう配慮している。		